

2021年度絵画科油画専攻学部入学試験 出題意図

今回の出題意図は、一次試験では文章に対してどのように解釈しそれをどのような表現に置き換えられるか、その独自性と解釈で判定しようとするものです。

二次試験においては一次試験をさらに展開させ、受験生が独自に文章を書き、それを元にどのような表現が可能かを考え表現する事をもって判定しようとしてしました。

これら一次二次試験の出題の主眼は、昨今の美術は作品の美しさや技法だけではなく、独自の哲学と表現が求められており、大学で四年間を過ごすに当たって将来国際的に活躍が期待できる質の高い学生を採る目安として出題しました。

第1次実技試験

(出題文) 「以下の文章を自身で解釈し、それを描きなさい」

出題文に用いた文章は、主人公が自問している場面を抜粋したものである。

風景の具体的な描写というより、「自分と世界との関係」や「人間が生きること」に関して考え、自身がどのように真摯に取り組んだかを見る。文章をどのように読み、解釈し、それをどのように描いたかに着目しながら、その中で基礎的な表現力を見る設問とした。

第2次実技試験

(出題文) 「自身の言葉、あるいは文章を書き、それについて作品を制作しなさい」

その言葉、あるいは文章をスケッチブック内の指定した試験用紙に書きなさい。

第1次実技試験では他者の文章を読み自身の表現に展開する力を見たが、2次試験ではそれに繋がりを持たせ、自身の言葉、あるいは文章を書き、それを元に表現へ展開する力を見る設問とした。また、自身の言葉や文章を表すために必要な表現を考えてもらうため、「作品を制作」することとし、古典的な絵画表現のみにとらわれず、解答の手段に可能性の幅を持たせた。